

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念に基づいて職員で考え、ふたばの憲章を掲げ実践している。誰でも見れる場所に提示している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月2回の会議、日々の実践の中でケアに必要な事柄や必要とするものは、早急に話し合い実施できるように取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関入口に誰でも閲覧出来る様にしている。又来所時、家族会を通じて理念の浸透を図っている。地域への行事等に参加したり、ふたばで行う行事にも招待し理念を理解してもらえよう努力している。</p>	<p>ふたばを理解し、より深く理念の浸透を図っていけるよう努力している。</p>
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や畑仕事など、日々の生活の積み重ねの中で町内の方との顔馴染みが増え、声を掛け合う関係が築いてきている。</p>	<p>気軽に立ち寄ってくれる環境が増えつつある。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会の催し、清掃の参加、利用者のお誕生日会、家族会を通じてお互いに行き来し、良い関係が築けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>兵庫県高齢者生きがい創造協会 (兵庫県いなみ野学園) 地域活動指導者養成講座の講義に毎年依頼を受けている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>職員が日々の業務の中でストレスを溜めないようにいつでも悩みを打ち明けられる環境に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		個々に安心して暮らせるよう、利用者、家族と相談を重ね、お互いに納得して暮らせる事ができるよう努力している。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		7月から夜勤者のみの職員増加。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		ネットワーク作りは昨年度の課題であり、少しずつであるが進行中。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>出来る限りの情報を収集、本人の不安の原因、求めているものを深く受け止める。安心が図れるよう良く話しを聞き、受け止める努力をしていく。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が何でも言い易い雰囲気、環境作りに配慮している。又家族の安心に繋がるよう話しを聴く機会をいつでも設けている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時の利用者、家族の現状に対して、希望、出来る事を精査し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者、家族からの聞き取り、本人の様子を的確に捉え、本人が安心できる雰囲気にし不安を軽減する事に努めている。又、出来るだけ今迄の生活スタイルから大きく環境を変えないように努めている。</p>	<p>本人の不安を出来るだけ早く取りのどけるよう配慮していくことに努めている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族的な関係になっており、お互いに言い合える環境にある。お互いに支え支えられであり、喜怒哀楽を共にしている関係を築いている。</p>	<p>喜怒哀楽を共にできる環境を築けている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族会を通じ信頼関係を深め、家族会の趣旨通り、利用者、家族、スタッフが一丸となって利用者を支え、双方の安心に繋がる関係を築いている。		家族、スタッフが一丸となって利用者を支えていく関係が築けている。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症に対する家族の理解が薄く、関係が崩れている家族に対して、自然な流れの中で説明をしたり親子の絆を深められるよう支援している。その中でも家族会の存在は大きい。		家族会の趣旨にある家族会の存在は大きく、良い関係が築けている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何方でも、何時でも気軽に来所できる環境に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性が合う合わないはあるが、常に支え合う気持ちを利用者と話し合い、皆が助け合って暮らせるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も家族からの相談等にも気軽に応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>今迄の生活スタイルを重視し、本人の希望、意向を尊重した対応に努めている。</p>	<p>本人の意向の中で何が一番重要化を検討し、意向を尊重した支援に努めている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>今迄の生活スタイルを十分に把握した上で、本人の希望する暮らしに繋げていけるようにしている。</p>	<p>情報をより分かり易く収集し、会議内においても説明しこれまでの暮らしの経過等の把握に努めている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の持ち得る能力、身体レベルの現状を確認しつつ、本人のペースに合わせた暮らしの実現に努めている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>必要な関係者から情報収集し、個々のケアカンファレンスを行い、今後の方向性を決定し取り組んでいる。又、会議において意見を出し合い利用者に添ったプランを作成し、スタッフ全員が把握、周知徹底を図るようにしている。</p>	<p>方向性を全員で話し合いを行い、周知徹底を図り実践していくよう支援している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況の変化に応じて、利用者、家族、関係者と相談の上、ケアプランの見直しを行っている。見直したプランは家族に送付し再度確認をしている。見直したプランは職員の周知徹底を図り支援している。</p>	<p>その都度の相談を口頭で行い納得を図り対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で気付いた事、工夫すべき事で直ぐに試して見る事は口頭、連絡帳にて分かるようにしている。試した結果はどうであるか相談をしていき、情報を共有しながら実践、見直しに活かしている。		日々の様子の中で早急に改善しないといけない事柄については、すぐに話し合い見直しを行い結果を会議内で相談し見直しに活かしている。
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いつでも柔軟な対応ができる環境にしている。		
4.より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	いつでも受け入れ態勢は出来ている。ボランティアの受け入れは外の風を取り入れ利用者の刺激になっている。		今後も必要に応じて受け入れていきたい。
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて話しあい相談をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後も地域の活性に協働していきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のクリニックと医療連携体制が取れており、月2回の往診、又日常的に相談したり指示を仰ぐ事ができる体制が出来ている。		往診時、又はいつでも指示を仰ぐ事ができる体制にある。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との関係が上手く取れており、何でも相談できる環境にある。		気軽に相談できる環境にある。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ドクターからの指示で看護師の訪問、相談をしながら、日常の健康管理に必要な支援はできている。		クリニックとの契約をしており、必要時はドクターからの指示で看護師の訪問もあり、気軽に相談できる体制にある。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の経過の情報交換を密にし、家族の希望、病院側との調整、かかりつけ医との相談を行いつつ、早期退院の受け入れ体制は整えている。		家族の希望、本人の状態を合わせ、かかりつけ医との相談を行い、早期に退院が可能となるよう支援している。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には都度の状態の説明を行い、必要時はドクター、家族との話し合いを行い方針を打ち出し全員が共有し支援している。		お互いの納得を確認しつつ、繰り返し話し合いを行い方針を立て支援をしている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後直面する事について事前に話し合い、相談をしておく。看取りについては、医療との連携が深く関わる事である為、ドクター、家族との密な相談を重ねつつ支援に取り組んでいる。		お互いに後悔を残さないよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退去時のダメージを最小限にする為、十分な情報交換を行っている。		ダメージを最小限に抑えるよう支援している。
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々のプライバシーについては、十分に配慮した対応を心掛けている。		十分に配慮した支援をしている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いを素直に出せる環境にあり、利用者が個々に思いを表に出し合い、納得した暮らしの自己決定ができている。同時に譲り合うことも必要である事を説明している。		家族のような暮らしになり遠慮が無いことから、ぶつかり合うことも多くある。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活が、一人一人のペースで過ごしている。少し休息を促しても、何もしないと困る人、今はゆっくりしたい人、喋りたい人とそれぞれ思うがままに、利用者の思う暮らしが出来ている。		日々、自由に過ごし易いように支援している。
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしいおしゃれ、身だしなみができている。買い物、美容院等希望があれば行ける様にしている。		パーマ等も希望があれば美容院にも出掛けるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けも職員と一緒にし、食べたい物があれば取り入れたり、たまには外食に出たりしている。ふたばでできた野菜を収穫し、新鮮野菜を食する喜びがある。		その日の状況で外食する事もある。その日は準備も片付けも無くゆっくり食事を楽しむ事もある。臨機応変に対応をしている。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康面で問題の無いところで、個々の嗜好を尊重し、日々の楽しみが保てるように心掛けている。		健康面で問題があっても、甘いおやつでは満足がいかず、本人の食べたい意識が強くストレスとなる方には、本人、家族と相談を重ね対応している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ちよく排泄できる工夫をしている。		本人の排泄意識に合わせ、又羞恥心に配慮した対応に努めている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴をしている。一人一人のタイミングに合わせて入浴を楽しめるようにしている。		入浴を楽しむ、清潔を保てるよう支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の暮らしの充実により、睡眠時間は安定している。昼寝の習慣の無い利用者も多く、休息を促しても寝る事が苦痛くないの元気が現在はある。		日々、充実感を感じられる暮らし振りから、夜間もゆっくり休まれるよう支援している。
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をする事で、その人らしい暮らしができています。		目が覚めると何かをする目的があり、ふたばの一日が始まる暮らしを支援している。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心感を持てる事を理解し、お金を持つ事で混乱を起こさない限り、必要に応じて使えるようにしている。		本人が一部管理されている方は、外出時に買い物をされている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、畑作業に加えて、外食、外出の日を定期的に設けている。個々の希望はその都度支援している。		出来るだけ閉じこもらないよう対応している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出は何時でも出掛けられる。故郷の山が見たい。四季の花が見たい等、その時々々の希望を検討し支援している。家族との一泊旅行も一年に一度機会を作っている。家族からも好評で計画を継続している。		一泊旅行については、施設に入ったら家族と一緒に旅行に行けるとは思わなかったと言われる方が多い。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、家族の連絡は自由に行っている。家族からの電話の取次ぎ、手紙のやり取りも自由に行っている。		自由にされているが、内容によって混乱される事もあり、電話での内容、手紙の中身については確認をし、安心のいく対応をしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に誰でも入ってこれる雰囲気に努め、プライベート、状況に合わせた場所に配慮した空間作りを心掛けている。		継続している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。本人がベッドから落ちる事が不安でベッド柵を希望する事はある。		基本的に拘束は行わない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、外出以外は鍵を開けており、急な飛び出しにも職員の目配り、気配りで対応しており、心理的安心を図っている。		心理的安心感は大きい。時には玄関のドアを開けて自然の風を感じている。
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングより全居室の入口が見渡せる作りになっている。利用者の行動パターンを把握し所在の確認を密にする。急な飛び出しには常に安全に配慮した対応をしている。		常に所在の確認をしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態、状況に応じて対応している。置いてはいけない物品は無い。暮らしの中で全員が包丁、はさみ等使い生活している。		日々の暮らしの中で、職員と一緒に包丁、はさみを使用しており、怪我をしないよう配慮しながら対応している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等予測できる事を把握して対応に努め、事故防止に心掛けている。又、ヒアリハットを作成し、会議内で検討し、その原因や今後の対策を話し合っている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議内で急変に対する対応、連絡方法等を定期的に行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、日中、夜間想定した非難訓練を実施している。		定期的に実施継続。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	必要時、家族に報告、相談、会議内にて議題を挙げ対応策を話し合っている。	事前に予測できる事を、家族と相談を重ね、対応策を話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	日々の体調変化や様子の変化に注意し、気づいた際には、直ぐに情報を共有、必要に応じてドクターに相談し早急に対応している。決まった時間にバイタルチェックを行っている。	その日の勤務者で情報を共有、連携を密にし、直ぐに対応できる体制にしている。
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	名前を確認しながら服薬している。服薬説明書から各職員が副作用等の理解をした上で対応に努めている。	名前の確認、服薬されたかをシートに記録チェックし誤薬を防いでいる。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	排便状況のチェック、入浴時の腹部の状態確認に注意を払い、きなこ牛乳、ヨーグルト、腹部のマッサージ、散歩などで出来るだけ自然排便を促している。又自力排便が難しい方にはドクターに相談し指示を仰いでいる。	一日の暮らしの中、散歩、家事全般等。身体を動かす事で腸内を活発にしていき便秘の予防にもなっている。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	入れ歯の手入れ、口腔洗浄の指示、促しを個々の状態に合わせて対応している。	口腔内の汚染は肺炎にも繋がる事にもなる為、個々の対応に配慮している。毎日、イソジンでのうがいを行っている。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一日の総カロリーは1400カロリーを基準としている。水分の確保には十分に配慮している。一日三回はお茶の時間を作っている。散歩後には冷たいお茶を用意している。	季節によって自室内いおいても日射病にもなる事もあり水分補給には十分に配慮している。脱水、肺炎への予防にも努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防や対応について会議で話し合い取り決めをしている。資料をファイルし個々に配布し周知徹底を図っている。又手指消毒の徹底、賞味期限の確認、冷蔵庫内の清潔管理に努めている。		朝、昼の食事作りをしており、職員、利用者の手指の洗浄は徹底して行っている。感染予防については会議内で繰り返し周知徹底を図るよう話し合いをしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器は乾燥機による熱消毒、布巾類は塩素漂白剤、テーブル、冷蔵庫はアルコール消毒し清潔に努めている。		毎日の消毒を徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気に努めており、安心して出入りできる空間作りに配慮している。又玄関先には、行事毎の写真を展示したり、利用者別の写真を置きいつでも見れるようにしている。		其処で暮らしている人の思いが雰囲気として出るものである。人が気軽に入ってこれる雰囲気は自然に感じれるものであり努力をしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団樂の場として集うリビングには、それぞれ居心地の良い場所がある。趣味を広げて見たり、その時々のお花、展示物で季節感を感じ、話題も沢山生まれている。		リビングにはタンス、ソファ等が置かれ、家族的な雰囲気にしている。キッチンは見える所があり、匂いも感じる事が出来、生活感を感じる事ができる環境にある。季節毎に季節感を採り入れる工夫をしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、廊下のいたる所にベンチを設け、リビング中央にはソファがあり、気の合う者同士で会話したり、それぞれに過ごせる居場所がある。		狭いリビングの空間で一日の大半を過ごす生活をする為、出来るだけ苦しい空気にならないよう工夫している。廊下にもベンチを置き、少し周りと距離を置いて、気の合う者同士でお喋りをする事で気分転換にもなれる空間作りに努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には使い慣れた物を持ち込まれ、自由に居心地よく過ごせるように工夫されている。		自由に利用者、家族が相談して使い易く、暮らし易いように工夫されている。利用者が今迄使われていた品物がある事で安心される環境にしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝には窓を開け空気を入れ替えるようにしている。各居室、リビングに温度計をつけ調整するようにしている。		朝 夕との温度差、南、北との温度差、暑がり、寒がり、その日の体調等、掛け物での調整を含め、個々に細やかな対応をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の作りを活かした工夫をしながら、安全の確保、自立レベルの維持に努めている。		便利な事が暮らし易いだけでは無く、安全を確認しつつ段差を利用し脚力の維持にお努めている。今あるレベルを維持をしていく工夫をしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の発揮できる場を提供する事で、成し遂げる達成感や自立して暮らせる喜びがある。生きる自信に繋げていきたい。		個々に働き掛ける(出来る事、出来ない事、経験している事、していない経験)の場を提供する事で以外性が見えたりする。達成感を感じる事で自身の自信に繋げるよう支援している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキには物干し台があり、朝には洗濯物を干しながらお隣同士で話が弾んでいる。玄関先には植木を置き、水遣りをされたり、テーブル、ベンチを設置し散歩後の休憩場所、語らいの場所になっている。		洗濯物を干しながらの会話を聞くと微笑ましく、和やか時間を過ごせている。玄関先のベンチは散歩後、少し腰を下ろせ語らう場所に良い。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

【日々の暮らし振り】朝目が覚めると何かをする目的がある。人間にとってもっとも大切な事です。ふたばの一日はそんな一日から始まります。ここで暮らすには9人が助け合って生きる事の大切さ、「明日は我が身である」を戒め、人の事は言わないようにと伝えます。脳を刺激する。身体を動かす。会話する。笑う。喜怒哀楽を共に暮らしています。食(美味しく、楽しく食べる) 排泄(快便) 睡眠(安眠) 身体を動かす事は普通に暮らす事の条件です。この時代の方は、できるだけ「人さんのお世話にならんようにせないかん」との思いが強くなる。その思いが生きるバネでありプライドである。お互いに教え教えられ、支えあいの暮らしを実践しています。